

4-共研-93 源氏物語の計量分析

統計数理研究所 村上 征 勝

源氏物語は平安中期に紫式部の手により成立したと考えられている。しかし古来その作者については疑義がとなえられ様々な学説が交錯している。本研究は3年の計画で計量文献学的な視点からこの問題の解決を計り、加えて、平安期の日本語の計量的な特色を把握することを目的としている。

研究2年目の今年度は昨年度入力した「源氏物語大成」（中央公論社）のフルテキストデータベースの校正を行ない、その後文章を「分ち書き」し品詞情報を付加した。また、紫式部の文章と比較するため、江戸時代に本居宣長が源氏物語に文体を似せて書いたとされる「手枕」の巻を入力し、「源氏物語」と同様に「分ち書き」し品詞情報を付加した。

4-共研-100 所得分布の一般化と解析

統計数理研究所 田 口 時 夫

パレート所得分布の一般化、拡張を行った。具体的にはパレート分布は対数指数分布といえるが、本研究においてはそれを対数ガンマ分布として一般化し、その性格を、主として集中曲線、ジーニ係数によって解析した。此の研究成果に基づいて更に二次元の対数ガンマ分布を構成し、集中曲面及び二次元の集中諸係数を解析した。これらの結果は更に集中回帰曲線の分析に用いた。

4-共研-103 毒性評価における統計解析

岡山理科大学 理学部 山 本 英 二

本共同研究では、新潟県におけるヒ素中毒住民健康被害の疫学調査に関わってきた医学者と生物統計に関心の深い統計学者が共同して統計解析を行い新たな知見の獲得を目指すと共に、各専門分野の研究を深めることを狙った。住民健康被害の調査データは歴史的コホート研究に当たるがその統計解析手法の検討、評価を行い、研究の指針を与えた。特に生存解析に於て、ヒ素 DOSE と喫煙歴の寄与についての交互作用の解明や、各要因の大きさの与え方によるモデルへの影響とその評価についての検討をおこなった。この研究を通じて従来ははっきりと示されなかったヒ素の経口摂取による肺ガンの過剰死亡が明らかにされて来ている。これらの結果は疫学の関連学会での口頭発表や論文として成果を上げてきている。